

未だ冷え固まらない 地層のリズム

半眼のまなざしは 対位旋律をゆるやかに遷移し

揮発するものと 沈殿するものとの ひき裂かれる

どこか遠く 電話の音が 魂と抜け殻との距離を告げる午後

今日も部屋を飛び出して

行くべきところに行つて

やるべきことをやろうと

いつもの路地を歩きだす

と不意に

頭上のどこからか いつも

なにか意味をもった声が

頭脳のどこかで閃き 足もとにつき抜けてゆく

歩みはとまる

行くべきところに行つて

やるべきことをやろうと

から元気を出して 飛び出してきたのに

経行（きんひん） しのび足で部屋に戻り

その幻聴を 白紙に書きとめる

頭腦の闇からヤミ※かつぎ わんさわんさか
和讃唱和がうねり寄せくる

古代博物館

張りつめられ

怨念に満たされて

エクタール(単弦楽器)のホールに響き続ける

風化した土偶の叫び

奏者不在の曲想を立体分割する

モザイク文様に織り込まれた

虹色に輝く

古代シルル紀の

巻き貝の化石よりも屈折した

不協和音の協奏曲

成熟に向かおうとする情動と

拒否しようとする意志との

せめぎ合う叫びか

宇宙の渚にうず巻く生のキラめきを瞑目の裡にとどめ

あるべき世界のイメージを分泌する

秘めやかな呪術なのか

盲目の情熱などいら
ない
ノンと言
い切る理
性もいら
ない

糸口のない 時代の不協和音を
病んだ耳しか聴こうとしないなら

冷たい結晶に閉じこめた 乱反射する怒りを解き放て
原初の叫びの意味を この地上に奪い返し木霊させよ

打ち倒しえたものは何もない！

フィジカルな日常の

黄道上の明証性を拒否した

頭脳の境界をはしる

沈黙のことば

行くべきところに 行って

やるべきことを やろうとするのに

行くべきところに 行き着かず

やるべきことも できず

ことばのうねりに

ゆらゆら ろぼろぼら

船酔い 酒酔い

こころよいリズムの 金縛り

イズムの ところ縛り

揮発するものと 沈殿するものと

あわいに析出する いらだちの光景たちよ